

令和 3 年度 学校評価アンケート結果分析

時期： 中間 9月～10月 年度末 12月～1月

対象： 児童 467名 回答417名 回答率 89%

保護者 467名 回答269名 回答率 57%

教員 23名 回答 23名 回答率 100%

形式： グーグルクラスルームを利用したアンケート調査
及び質問紙調査（4 件法）

項目： 「学習」「生活」「仲間・健康」「学校」の 4 項目



令和 4 年 3 月

生駒市立俵口小学校

1～2年 子どもアンケート

じぶんのことを おもいだして、こたえましょう。あてはまる ばんごうに ○ をつけましょう。

	おもいだすこと	そうおも う	だいたい そうおも う	あまりそ うおもわ ない	そうおも わない
かくしゅう	1-① かていがくしゅうを がんばった。	4	3	2	1
	1-② かていがくしゅうとして、1ねんせい は20ぷんかん、2ねんせいは30ぷん かん、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③ じぶんの かんがえたことを、ノート やプリントに かくことができた。	4	3	2	1
	1-④ がくしゅうしたないようが、どんな ないようだったか わかった。	4	3	2	1
	1-⑤ じぶんのかんがえを、クラスのともし だちに わかりやすく はなすことがで きた。	4	3	2	1
	1-⑥ じゅぎょうちゅうは、せきにすわって がくしゅうした。	4	3	2	1
せい かつ	2-① がっこうせいかつの きまりや こう つうルール、ともだちとの やくそく をまもった。	4	3	2	1
	2-② がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに ていねいなことばを つけた。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで ちがうがくねんの ひとと きょうりょくすることができ た。	4	3	2	1
	2-④ 年下(としした)の子(こ)をだいに し、年下(としした)の子(こ)から し たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ ろうかを ただしくあるいた。	4	3	2	1
	2-⑥ がっこうのせんせい、ともだち、きん じょのひとに きもちのよいあいさつ をした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりと そ うじをした。	4	3	2	1

なまえ ()

なかま・けんこう	3-①	がっきゅうかいで よくかんがえて じぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-②	ひとのいけんを よくきいてから、じぶんのいけんを いった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよくあそぶには どうしたらよいかをかんがえてこうどうできた。	4	3	2	1
	3-④	きもちよく がっこうせいかつをおくるためには どうしたらよいかをかんがえて、いいんかいかつどうを おこなった。				
	3-⑤	たいいくのじかんには、しっかりとからだをうごかして うんどうした。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、たのしみながらからだをうごかした。	4	3	2	1
	3-⑦	やすみじかんには、そとにでてあそんだり からだをうごかしたりした。	4	3	2	1
がっこう	4-①	がっこうはたのしい。	4	3	2	1
	4-②	じぶんは ひとのやくに たっているとおもう。	4	3	2	1
	4-③	あいてのきもちを かんがえて こうどうしている。	4	3	2	1
	4-④	ちゅういされたときは すなおに はなしをきくことができる。	4	3	2	1
	 こまったことがあれば かきましょう。					

3～4年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまるばんごうに○をつけましょう。

	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学 習	1-① 朝の学習やかてい学習をがんばった。	4	3	2	1
	1-② かてい学習として、3年生は40分間、4年生は50分間、べんきょうすることができた。	4	3	2	1
	1-③ 自分の考えたことを、ノートやプリントに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④ 学習した内ようが、どんな内ようだったか分かった。	4	3	2	1
	1-⑤ 自分の考えを、クラスの友だちに分かりやすく話すことができた。	4	3	2	1
	1-⑥ じゅぎょう中は、せきにすわって学習した。	4	3	2	1
生 か つ	2-① 学校生かつのきまりや交通ルール、友だちとのやくそくをまもった。	4	3	2	1
	2-② 学校の先生、友だち、近所の人に、ていねいなことばを使った。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで、ちがう学年の人ときょうかすることができた。	4	3	2	1
	2-④ 年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ ろうかを正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥ 学校の先生、友だち、近所の人に、気もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりとそうじをした。	4	3	2	1

なまえ ()

なかま・けんこう	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよくきいてから、自分の意見をいった。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなでなかよくあそぶには、どうしたらよいかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。				
	3-⑤	体いくの時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出てあそんだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、すなおに話をきくことができる。	4	3	2	1
		こまったことがあれば かきましょう。				

5～6年 子どもアンケート

自分のことを思い出して、答えましょう。当てはまる番号に○をつけましょう。

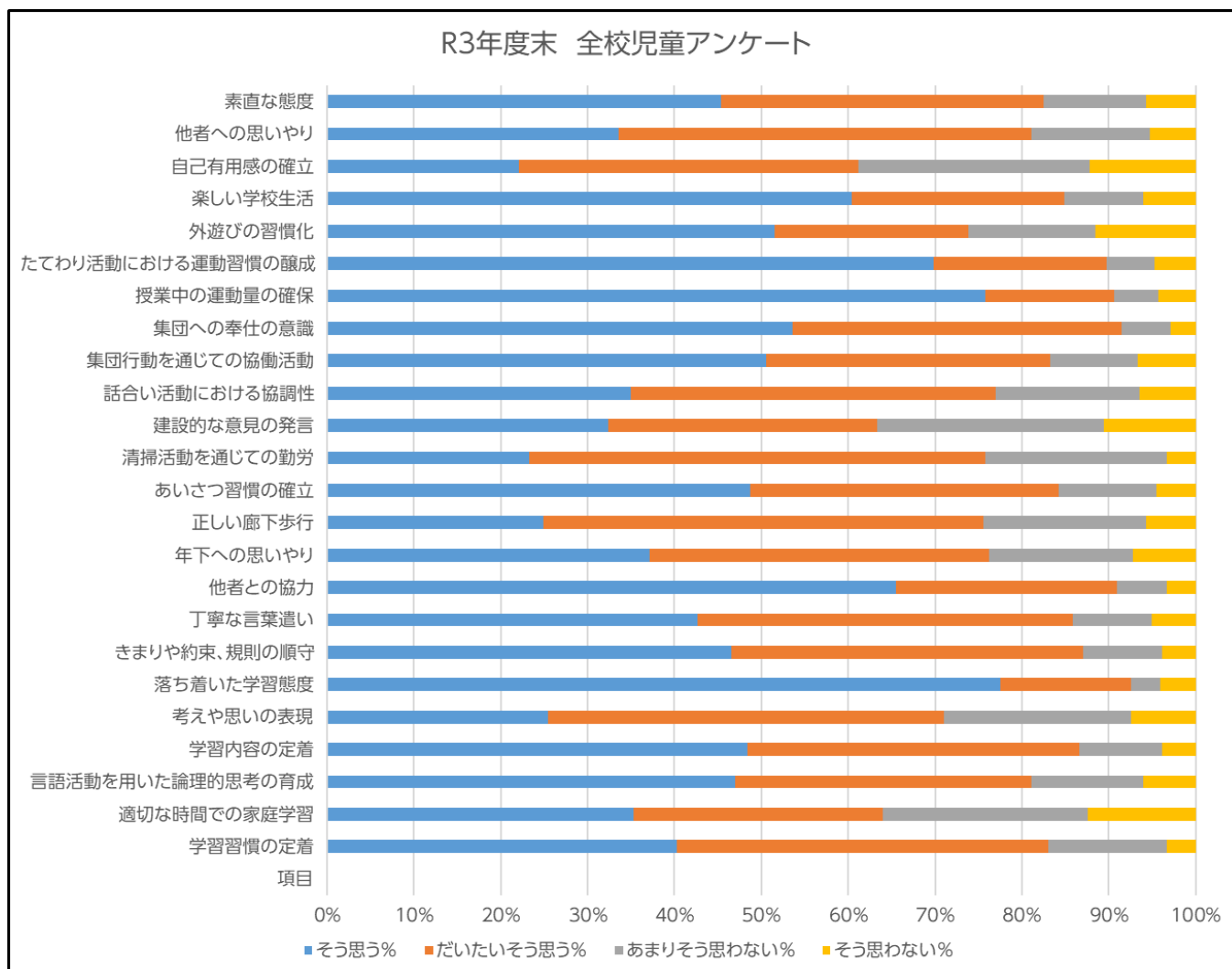
	思い出すこと	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学習	1-① 朝の学習や家庭学習をわすれずにする ことをがんばった。	4	3	2	1
	1-② 家庭学習として、5年生は60分間、6 年生は70分間、勉強することができ た。	4	3	2	1
	1-③ 自分の考えたことを、ノートやプリン トに書くことができた。	4	3	2	1
	1-④ 学習した内容が、どんな内ようだった か分かった。	4	3	2	1
	1-⑤ 自分の考えを、クラスの友だちに分か りやすく話すことができた。	4	3	2	1
	1-⑥ 授業中は、席に着いて学習した。	4	3	2	1
生活	2-① 学校生活のきまりや交通ルール、友だ ちとの約束を守った。	4	3	2	1
	2-② 学校の先生、友だち、近所の人に、て いねいな言葉を使った。	4	3	2	1
	2-③ ふれあいタイムで、ちがう学年の人と 協力することができた。	4	3	2	1
	2-④ 年下の子を大事にし、年下の子からし たわれたり、たよられたりした。	4	3	2	1
	2-⑤ 廊下を正しく歩いた。	4	3	2	1
	2-⑥ 学校の先生、友だち、近所の人に、気 もちのよいあいさつをした。	4	3	2	1
	2-⑦ おしゃべりをせずに、しっかりとそう じをした。	4	3	2	1

なまえ ()

仲間・健康	3-①	学級会で、よく考えて自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-②	人の意見をよく聞いてから、自分の意見を言った。	4	3	2	1
	3-③	ふれあいタイムでは、みんなで仲よく遊ぶには、どうしたら良いかを考えて行動できた。	4	3	2	1
	3-④	気持ちよく学校生活を送るためには、どうしたら良いかを考えて、委員会活動を行った。	4	3	2	1
	3-⑤	体育の時間には、しっかりと体を動かして運動した。	4	3	2	1
	3-⑥	ふれあいタイムでは、楽しみながら体を動かした。	4	3	2	1
	3-⑦	休み時間には、外に出て遊んだり、体を動かしたりした。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は楽しい。	4	3	2	1
	4-②	自分は、人の役にたっていると思う。	4	3	2	1
	4-③	相手の気持ちを考えて、行動している。	4	3	2	1
	4-④	注意されたときは、素直に話を聞くことができる。	4	3	2	1
		困ったことがあれば 書きましょう。				

R3年度末 全校児童アンケート

分類	番号	全校		さそう%	だいたいさそう% さそう%	あまりさそう% ささない%	ささない% ささない%
		項目					
学 習	1-①	学習習慣の定着		40	43	14	3
	1-②	適切な時間での家庭学習		35	29	24	12
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成		47	34	13	6
	1-④	学習内容の定着		48	38	10	4
	1-⑤	考えや思いの表現		25	46	22	7
	1-⑥	落ち着いた学習態度		77	15	3	4
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守		47	41	9	4
	2-②	丁寧な言葉遣い		43	43	9	5
	2-③	他者との協力		65	25	6	3
	2-④	年下への思いやり		37	39	17	7
	2-⑤	正しい廊下歩行		25	51	19	6
	2-⑥	あいさつ習慣の確立		49	35	11	5
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労		23	53	21	3
仲 間 ・ 健 康	3-①	建設的な意見の発言		32	31	26	11
	3-②	話し合い活動における協調性		35	42	17	6
	3-③	集団行動を通じての協働活動		51	33	10	7
	3-④	集団への奉仕の意識		54	38	6	3
	3-⑤	授業中の運動量の確保		76	15	5	4
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成		70	20	6	5
	3-⑦	外遊びの習慣化		52	22	15	12
学 校	4-①	楽しい学校生活		60	24	9	6
	4-②	自己有用感の確立		22	39	27	12
	4-③	他者への思いやり		34	47	14	5
	4-④	素直な態度		45	37	12	6



児童アンケートの考察

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は 1 年生で、全項目で肯定的な評価をしている。次いで、肯定的意見の割合が高い項目が多い学年は 6 年生である。昨年度の調査では、低学年ほど肯定的意見の割合が高い項目が多く、5 年生を除いて学年が上がるにつれてその数が減っていたが、今年度の調査では高学年の児童も、昨年度に比べ肯定的な評価をしている傾向にある。それに対して、2 年生の肯定的意見の割合が高い項目が少ない。「落ち着いた学習態度」「他者との協力」については、他学年が肯定的意見の割合が 9 割以上なのに対して、2 年生は肯定的意見の割合が 7 割台と低く、注意が必要で改善を図るべき項目であると考えます。

R3 年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較

分類	全校肯定的意見の割合経年比較		R3年度末	R3中間	R3年度末	R3中間
	番号	項目	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
学 習	1-①	学習習慣の定着	83	81	17	19
	1-②	適切な時間での家庭学習	64	62	36	38
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	81	72	19	28
	1-④	学習内容の定着	87	85	13	15
	1-⑤	考えや思いの表現	71	61	29	39
	1-⑥	落ち着いた学習態度	93	89	7	11
生 活	2-①	きまりや約束、規則の順守	87	88	13	12
	2-②	丁寧な言葉遣い	86	85	14	15
	2-③	他者との協力	91	79	9	21
	2-④	年下への思いやり	76	70	24	30
	2-⑤	正しい廊下歩行	76	73	24	27
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	84	80	16	20
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	76	78	24	22
仲 間 ・ 健 康	3-①	建設的な意見の発言	63	55	37	45
	3-②	話し合い活動における協調性	77	70	23	30
	3-③	集団行動を通じての協働活動	83	79	17	21
	3-④	集団への奉仕の意識	91	83	9	17
	3-⑤	授業中の運動量の確保	91	88	9	12
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	90	83	10	17
	3-⑦	外遊びの習慣化	74	70	26	30
学 校	4-①	楽しい学校生活	85	80	15	20
	4-②	自己有用感の確立	61	64	39	36
	4-③	他者への思いやり	81	79	19	21
	4-④	素直な態度	82	78	18	22

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）

改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）

改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降）

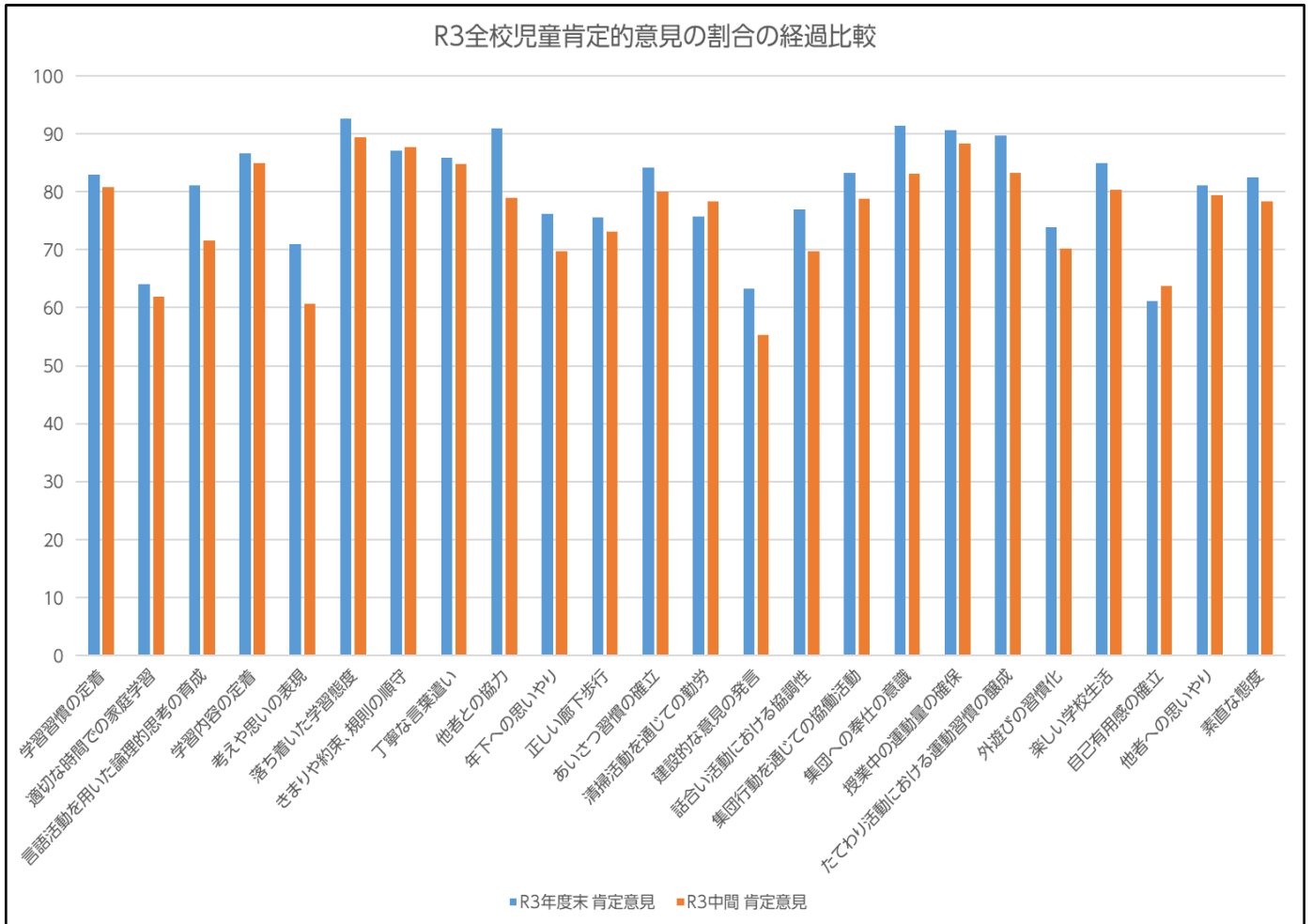
肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80以上

否定意見の割合が41以上

否定意見の割合が31以上

否定意見の割合が21～30



・今回の年度末アンケートで児童の肯定的意見が比較的に高い割合だった項目は、中間期に比べ5つ増えて15項目となった。「学習内容の定着」「落ち着いた学習態度」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「他者との協力」「集団への奉仕の意識」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」「楽しい学校生活」の9つは、いずれも85%以上の児童が肯定的な評価をしている。その中でも、「落ち着いた学習態度」「他者との協力」「集団への奉仕の意識」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」は9割以上の児童が肯定的な評価をしており、中間期の0項目から5項目へとその数が増え、大幅な改善が見られた。授業を効果的に進めるためには、学習規律が整っていることが必要不可欠であるが、本校の児童はほとんどの児童が落ち着いて学習に臨むことができおり、その点では達成が見られたと思われる。「きまりや約束、規則の順守」と「授業中の運動量の確保」の2つについては、昨年度のアンケートでも肯定的意見の割合が高かった項目である。『『学校生活のきまり』や『交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ』を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させる。』「体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図る。」については、今年度の教育活動において目標を達成したといえる。しかしながら、昨年度のアンケートでは、「きまりや約束、規則の順守」は、肯定的意見の割合が90%を超えていたことを踏まえて考えると、注意が必要で、今後の教育活動において、改善を図っていかねばならないと思われる。「他者との協力」については、中間期に比べて肯定意見が12ポイント上昇し、大幅な改善が見られた。中間期の結果を踏まえて、道徳や学級活動、委員会活動やたてわり活動など、あらゆる教育活動を通じて指導してきたことが結果につながったと考える。次世代を生きる児童には、他者と協働する力が求められている。児童が小学生の時から未来を見据え、このような力が身に付けられるように、今後も継続して支援にあたりたい。

・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」の3項目であった。これらの項目については、昨年度も否定的意見の割合が高く、俵口小学校の教育活動を推進するうえで、重点課題であると考え。今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、生駒市の教育課題として自己肯定感や自主性の醸成が挙げられており、本校の教育課題と合致する。しかし、家庭学習時間については、生駒市の平均は全国や奈良県と比べ長いという結果であり、本校の児童は、市内の他校の児童と比べて、家庭学習時間といった点で課題が見られるといえる。中間期に比べて2ポイントの改善が見られたものの、なお一層の改善が求められる項目であると考え。「建設的な意見の発言」は、中間期に比べて8ポイントの改善が図られたが、37%の児童が否定的意見として回答しており、「考えや思いの表現」の項目で3割近くの児童が否定的意見として回答していることを合わせて考えると、依然、本校の教育活動において、思考・判断・表現の育成といった点で取組に弱さがあると思われる。今後の教育活動において継続しての改善が必要であり、児童の思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた教育活動を実践する必要がある。日々の授業や学級会をはじめとした特別活動、委員会活動やクラブ活動、たてわり活動などあらゆる教育活動において、この点を意識して取り組むことが重要と考える。「自己有用感の確立」は、39%の児童が否定的な回答をしている。「自己有用感の確立」の項目については、5つの学年で否定的意見の割合が高くなっている。特に、5年生は5割を超える児童が否定的意見として回答している。「集団への奉仕の意識」の項目では9割以上の児童が肯定的意見として回答していることを踏まえ考えると、委員会活動等では充実した活動が行われていると思われる。今後は、高学年の児童が、たてわり活動においてリーダー的な役割を果たすことで自己有用感が得られるように継続して活動を支援していくとともに、それ以外の教育活動においても児童が自己成長を感じられるような取組を進め、児童の自己肯定感を育てていきたいと考える。

・中間期と比較して改善が見られた項目は24項目中21項目で、中間期での評価を生かした教育活動が展開されたものと思われる。改善が見られた項目の中でも、特に「考えや思いの表現」「他者との協力」については、肯定意見の割合が10ポイント以上上昇しており、大幅な改善が見られた。「考えや思いの表現」については、6学年中4学年で10ポイント以上の改善が見られ、「他者との協力」については、6学年中3学年で10ポイント以上の改善が見られた。10ポイント以上の大幅な改善ではないものの、「言語活動を用いた論理的思考の育成」「年下への思いやり」「建設的な意見の発言」「話し合い活動における協調性」「集団への奉仕の意識」「授業中の運動量の確保」「たてわり活動における運動習慣の醸成」「楽しい学校生活」の8項目で、肯定意見の上昇が5ポイント以上というかなりの改善が見られた。24項目中10項目でかなりの改善が見られており、中間期での評価を活かし、改善項目の教育内容については特に注力して教育活動がなされたものと考えられる。このことから、児童アンケート活用した学校評価のPDCAサイクルは、しっかりと機能したものと思われる。改善が見られなかった「きまりや約束、規則の順守」「清掃活動を通じての勤労」「自己有用感の確立」の3項目では、1から3ポイントの肯定意見の下降が見られた。そのうち「自己有用感の確立」については、否定意見が3割以上で改善が必要な項目であるにも関わらず、後退が見られる。「自己有用感の確立」については、本校のみならず、市や県、国でも継続しての課題である。改善に向けて、児童自身が自己を肯定的に捉えることができない原因に迫る必要があると考える。「自己有用感の確立」「きまりや約束、規則の順守」「清掃活動を通じての勤労」については、次年度への課題としたい。

児童アンケート各項目の考察

R3年度末 各学年及び全校児童アンケート

分類	番号	項目	肯定的意見(%)						否定的意見(%)							
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
学習	1-①	学習習慣の定着	97	71	85	80	75	88	83	3	29	15	20	25	12	17
	1-②	適切な時間での家庭学習	86	63	76	56	50	54	64	14	37	24	44	50	46	36
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	95	66	84	80	74	87	81	5	34	16	20	26	13	19
	1-④	学習内容の定着	86	68	92	89	85	99	87	14	32	8	11	15	1	13
	1-⑤	考えや思いの表現	91	63	77	67	57	71	71	9	37	23	33	43	29	29
	1-⑥	落ち着いた学習態度	96	79	95	95	90	99	93	4	21	5	5	10	1	7
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	89	68	82	91	92	97	87	11	32	18	9	8	3	13
	2-②	丁寧な言葉遣い	91	73	89	89	81	93	86	9	27	11	11	19	7	14
	2-③	他者との協力	96	77	97	90	88	97	91	4	23	3	10	13	3	9
	2-④	年下への思いやり	93	65	65	73	75	84	76	7	35	35	27	25	16	24
	2-⑤	正しい廊下歩行	92	61	71	76	68	82	76	8	39	29	24	32	18	24
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	95	71	82	92	81	81	84	5	29	18	8	19	19	16
仲間・健康	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	86	63	82	75	72	75	76	14	37	18	25	28	25	24
	3-①	建設的な意見の発言	84	56	73	67	47	51	63	16	44	27	33	53	49	37
	3-②	話し合い活動における協調性	86	65	82	70	76	82	77	14	35	18	30	24	18	23
	3-③	集団行動を通じての協働活動	95	66	90	81	72	94	83	5	34	10	19	28	6	17
	3-④	集団への奉仕の意識					89	94	91					11	6	9
	3-⑤	授業中の運動量の確保	99	85	94	89	89	88	91	1	15	6	11	11	12	9
学校	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	97	84	94	85	85	94	90	3	16	6	15	15	6	10
	3-⑦	外遊びの習慣化	82	71	90	76	69	54	74	18	29	10	24	31	46	26
	4-①	楽しい学校生活	97	85	74	77	88	87	85	3	15	26	23	13	13	15
	4-②	自己有用感の確立	85	55	58	65	47	54	61	15	45	42	35	53	46	39
	4-③	他者への思いやり	88	66	85	76	79	91	81	12	34	15	24	21	9	19
	4-④	素直な態度	91	69	79	77	85	93	82	9	31	21	23	15	7	18
		改善が必要な項目	肯定的意見の割合が90～100						否定的意見の割合が41以上							
		改善が必要でない項目	肯定的意見の割合が80以上						否定的意見の割合が31以上							
									否定的意見の割合が21～30							

学習

【1-①学習習慣の定着】

・2年生、5年生では達成率が80%に満たなかったが、他の4学年では高い達成率であった。特に、1年生は97%の児童が肯定的に回答している。朝の学習や家庭学習をわすれずにすることは、学習を進めるうえでの基本であり、必ず身に付けなければならない資質である。家庭の協力を得ながら改善を図っていききたい。

【1-②適切な時間での家庭学習】

・昨年に引き続き、1年生を除いて達成率が低い項目である。今年度に行われた全国学力学習状況調査によると、生駒市の児童は、家庭学習時間が県や全国と比べて長いという結果であったが、本校の中、高学年児童の半数近くは、学習時間が適切でないという結果になった。適切な時間で家庭学習を行うという習慣を身に付けておくことは、児童が上級学校へ進学した際に必要不可欠なことであり、その点を保護者にも理解してもらう必要があると考える。学級懇談会や個人懇談、学校だよりや学年通信等で家庭への啓発を強化していききたい。

【1-③言語活動を用いた論理的思考の育成】

・2年生と5年生で達成率が低い。先の学習指導要領で、言語活動の充実を図ることの必要性が説かれたが、「書く活動」は論理的思考の育成だけでなく、深い学びの習得にも効果的である。今後、学習活動において、ますます「書く活動」を取り入れていかなければならないと考える。「書く活動」を授業中に取り入れることで、論理的思考を授業で具現し、思考力・判断力の育成を図っていききたい。

【1-④学習内容の定着】

・学習内容の定着については、2年生以外の学年では85%以上の児童が肯定的に回答しており、3年生と6年生では90%以上の児童が肯定的に回答している。6年生は99%以上の児童が肯定的に回答しており、十分に達成がされたと考えられる。日々の学習活動において、基礎・基本の習得を徹底させてきた結果であると思われる。また、ICTを活用した授業が、児童の学びをスムーズにしていることも要因の一つと思われる。ほとんどの学年で達成されているが、2年生については達成率が低いので、進級するまでに既習事項の復習に注力し改善を図りたい。

分類	全校肯定的意見の経年比較					
	番号	項目	R3年度末 肯定意見%	R2年度末 肯定意見%	R3年度末 否定意見%	R2年度末 否定意見%
学習	1-①	学習習慣の定着	83	89	17	11
	1-②	適切な時間での家庭学習	64	64	36	36
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	81	83	19	17
	1-④	学習内容の定着	87	92	13	8
	1-⑤	考えや思いの表現	71	71	29	29
	1-⑥	落ち着いた学習態度	93		7	
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	87	90	13	10
	2-②	丁寧な言葉遣い	86	84	14	16
	2-③	他者との協力	91	90	9	10
	2-④	年下への思いやり	76	75	24	25
	2-⑤	正しい廊下歩行	76	74	24	26
	2-⑥	あいさつ習慣の確立	84	82	16	18
	2-⑦	清掃活動を通じての勤労	76	81	24	19
仲間・健康	3-①	建設的な意見の発言	63	63	37	37
	3-②	話し合い活動における協調性	77	78	23	22
	3-③	集団行動を通じての協働活動	83	84	17	16
	3-④	集団への奉仕の意識	91	77	9	23
	3-⑤	授業中の運動量の確保	91	94	9	6
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	90	91	10	9
	3-⑦	外遊びの習慣化	74	81	26	19
学校	4-①	楽しい学校生活	85	87	15	13
	4-②	自己有用感の確立	61	66	39	34
	4-③	他者への思いやり	81	84	19	16
	4-④	素直な態度	82	85	18	15

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）	肯定的意見の割合が90～100
改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）	肯定的意見の割合が80以上
改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降か横ばい）	否定意見の割合が41以上
注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）	否定意見の割合が31以上
	否定意見の割合が21～30

【1-⑤考えや思いの表現】

・中間期に比べて10ポイントの改善が図られたものの、昨年度に引き続き、達成率が低い項目である。本校は、自分の考えや思いを表現することに慣れていない児童が多いということが考えられる。まずは、学級が児童にとって安心して自身を表出できる場になっているかを振り返り、学級活動等においてSSTやエンカウンターなどの活動を取り入れるなどして、児童にとって学級が安心できる場となるようにしていきたい。そのうえで、児童が自分の考えや思いを表現できる場を意図的に創り出すことを考えていきたい。

【1-⑥落ち着いた学習態度】

・今年度新たに設定した項目である。授業を効果的に進めるためには、学習規律が整っていることが必要不可欠であり、その点ではある一定の達成は見られたと思われる。ほとんどの学年が高評価であるが、6年生ではほぼ全員の児童が高評価であることを考えると、低学年からの指導の積み重ねが、よい学習習慣の獲得につながっていると思われる。しかし、2年生においては他の学年と比べて肯定的意見の割合が低く、改善を図るべき事項であると考えられる。

生活

【2-①きまりや約束、規則の順守】

・5つの学年で肯定的意見の割合が高く、ほぼ達成されていると思われる。しかしながら、昨年度と比べると3ポイント肯定的意見の割合が減っている。児童の様子を見ていると、廊下歩行や制服の正しい着

用など、学校生活においてきちんとできていないことも見受けられる。引き続き全教職員で児童を見守り支援していくとともに、家庭とも連携していきたい。

【2-②丁寧な言葉遣い】

・学年間で差はあるものの、全体的に肯定的意見の割合が高く達成できている項目であると思われる。1年生と6年生は9割が肯定評価しており、時と場に応じた受け答えができてきていると思われる。日々の学校生活においてその都度、指導してきた結果であると考え。引き続き、指導の継続を図っていきたい。

【2-③他者との協力】

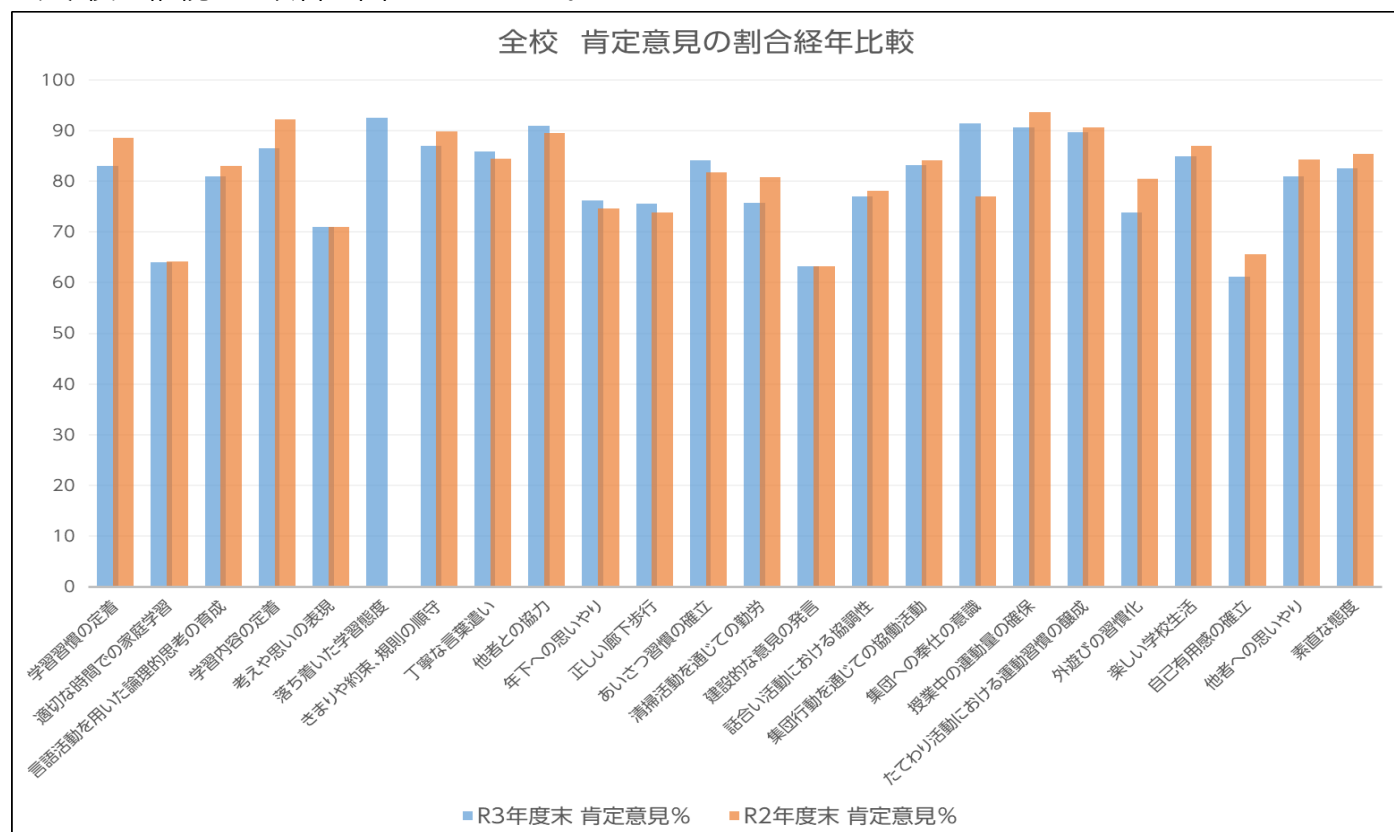
・全体的に肯定的意見の割合が高く、達成できている項目であると思われる。中間期のアンケート集計時に、昨年度の年末アンケートと比較して11ポイント下降していたため、ふれあいタイムの活動時に言葉がけの支援を強化するなど、後半の教育活動において改善を図った結果、昨年度末よりも1ポイント上昇させることができた。

【2-④年下への思いやり】

・全校の肯定的意見の割合は76%で、概ね達成されている項目であるが、3年生と4年生は35%の児童が否定的に評価している。たてわり活動の充実を図り、道徳等で思いやりについて学習するなど、今後の教育活動において改善が必要であると考え。

【2-⑤正しい廊下歩行】

・1年生は肯定的意見の割合が高いが、2年生と5年生では否定的意見の割合が高い。中間期の結果を踏まえ、生活向上委員会等が正しい廊下歩行についての啓発運動を行い、3ポイントの改善が見られたが、依然、大幅な改善には至っていない。「正しい廊下歩行」は本校の生徒指導の重点目標の一つであり、今後も継続して改善を図っていきたい。



【2-⑥あいさつ習慣の確立】

・全校の肯定的意見の割合は 84%であり、多くの児童が挨拶はできていると感じている。しかしながら、自ら進んであいさつする児童は少ない。望ましいコミュニケーション力の獲得に、あいさつは重要な要素の一つである。自ら進んであいさつができる児童の育成のために、今後も家庭や地域と連携して教育活動を展開していきたい。

【2-⑦清掃活動を通じての勤労】

・1年生、3年生は 8割を超える児童が肯定評価しているが、それ以外の学年については、肯定的意見の割合が 6割台から 7割台であった。児童の様子を見てみると、おしゃべりせずに掃除するもくもく清掃は、浸透してきていると思われる。隅々までしっかりと清掃活動ができるように、今後も継続して指導をしていきたい。

仲間・健康

【3-①建設的な意見の発言】

・昨年度に引き続き、1年生を除きほとんどの学年で否定的な意見の割合が高い。「考えや思いの表現」の項目での達成率の低さを合わせて考えると、本校の教育活動において、自らの意見を発表する活動に弱さがあると考えられる。中間期での結果を踏まえ、後半の教育活動においては各々の教員が学級会をきちんと確保し、児童が自分の意見を述べる場を設定していくなどの改善を図って 8ポイントの改善が見られたが、まだまだ改善を図っていかなければならないことが明らかになった。次年度への課題としたい。

【3-②話し合い活動における協調性】

・全校の肯定的意見の割合は 77%で、概ね達成されている項目であるが、学年間の評価で若干のばらつきがみられる。話し合い活動においては、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることが必要であるが、それ以上に相手の話をしっかりと聞いて状況を正しく理解・判断することが大切である。しっかりと相手の話を聞くということは、思考力・判断力の育成にも関わることであり、今後の教育活動においてその点にも注意して指導をしていきたい。

【3-③集団行動を通じての協働活動】

・全校の肯定的意見の割合が 83%であり、達成できている項目といえる。しかしながら、肯定的評価が 1番高かった 1年生と 1番低かった 2年生とでは 29ポイントの開きがあり、結果についてその原因を特定し、改善を図る必要があると考える。

【3-④集団への奉仕の意識】

・昨年度の調査と比べて、肯定的意見の割合が 14ポイント上昇している。ほとんどの高学年の児童が、高学年としての自覚を持って委員会活動に参加していると思われる。今後の教育活動においても、児童に奉仕の気持ちをもって委員会活動を行っていることをしっかりと認識させ、児童それぞれの自己有用感の獲得につなげたい。

【3-⑤授業中の運動量の確保】

・今年度も昨年度と同様にすべての学年で肯定的意見の割合が高く、達成できていると思われる。引き続き、体育の学習においてしっかりとした運動量を確保し、児童の体力向上を図っていきたい。

【3-⑥たてわり活動における運動習慣の醸成】

・全校の肯定的意見の割合が90%であり、達成できている項目といえる。学年間で評価に若干ばらつきが見られる。この結果を踏まえ、今後のたてわり班活動においては、児童らに支援していく必要があると考える。

【3-⑦外遊びの習慣化】

・昨年度と同様に、学年が上がるにつれて否定的意見の割合が高くなっている。6年生は、ほぼ半数の児童が外遊びをしていないという結果になった。体力向上の観点からも、また、外遊びで適度に体を動かすことによって気持ちを切り替えて、その後の学習に集中して取り組むという点でも、外遊びの習慣化を達成させていきたい。ただ、高学年は委員会活動やその他の活動等で忙しい場合もあり、その点を配慮しながら学級遊びの設定など工夫して取り組んでいきたい。

学校

【4-①楽しい学校生活】

・学年間で評価に若干ばらつきはあるものの、ほとんどの学年で肯定的意見の割合が高く、ほぼ達成できていると思われる。しかし、全校児童の15%の児童は否定的な意見をもっており、また、昨年度末に比べて3ポイントの下降が見られ、注意が必要である。「楽しくない原因はどこにあるのか」といったことを常に問いかけ、児童の様子を注意深く見守る必要があると思われる。

【4-②自己有用感の確立】

・昨年度に引き続き、否定的意見の割合が高く、今後の教育活動において改善が必要である。特に高学年の児童は、半数が否定的な評価をしている。「高学年として自覚をもって委員会活動を行っているか」という項目で肯定的評価をしているにも関わらず、自己有用感を育むことができていないという実態が明らかになった。この点を踏まえ、委員会活動やクラブ活動、たてわり活動はもとより教科学習など教育活動全般において、高学年の支援を行う必要があると考える。

【4-③他者への思いやり】

・全校の肯定的意見の割合が81%であり、概ね達成できている項目といえる。しかし学年間の評価にばらつきが見られる。昨年度は学年間での評価のばらつきが少なかったことを考えると、注意が必要であると考え。引き続き、年少者への思いやりも含め、他者への思いやりが育めるような教育活動の展開をしていきたい。

【4-④素直な態度】

・中間期に比べ4ポイントの改善が見られたものの、昨年度に比べ、全体で3ポイントの下降が見られた。本校の児童の良さでもあった、素直な態度をとることができない児童がどの学年でも増えてきており、注意が必要であると考え。道徳や学級活動等を通じて指導するとともに家庭とも連携していきたい。

R3年度学校評価 自己評価

名前 ()

評価指数

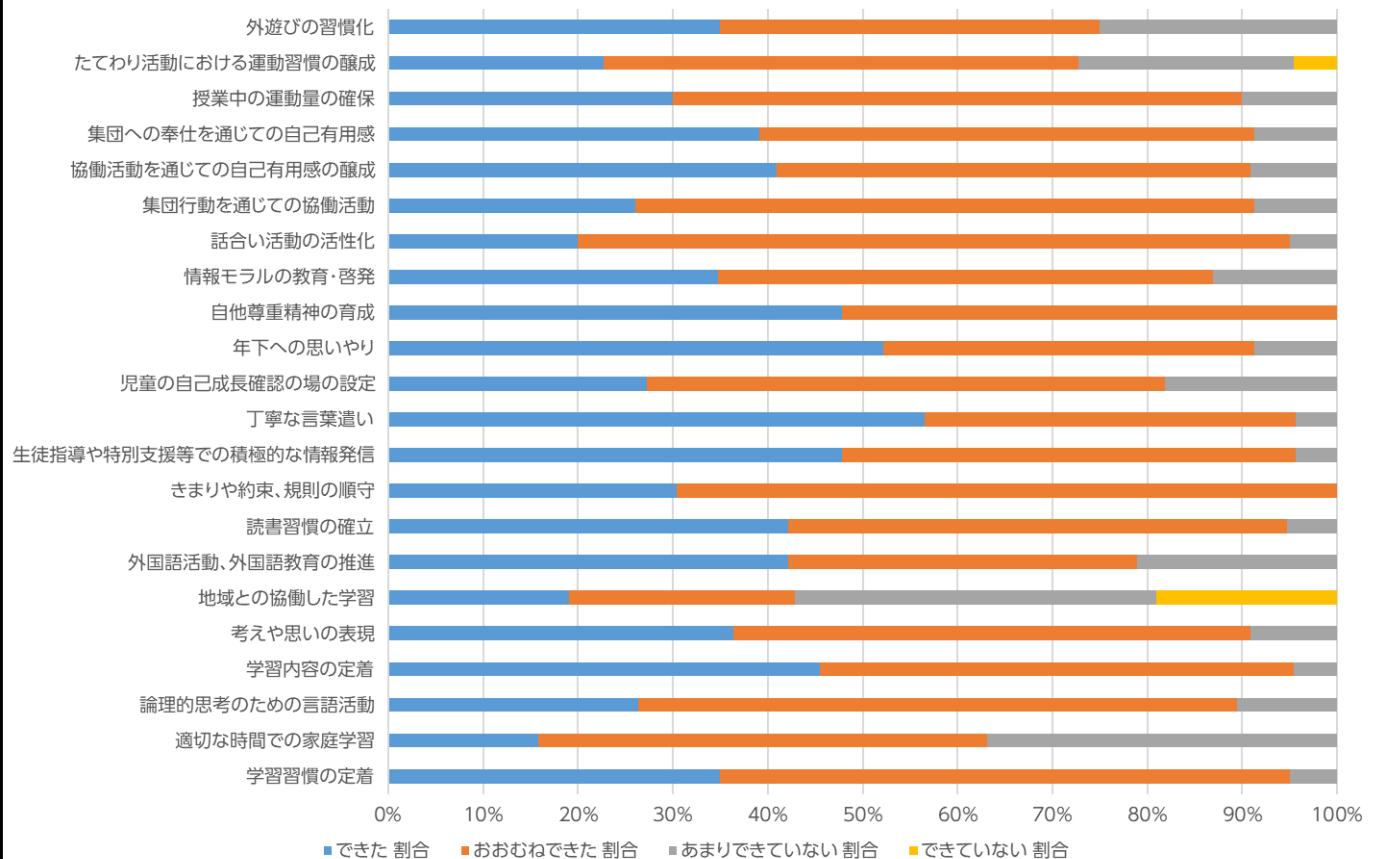
4) できた 3) 概ねできた 2) あまりできていない 1) できていない

重点目標・重点課題			達成目標・評価指数	評価
県	生駒市	本校		
知： 確かな 学力の 育成	1.課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現 2.地域と連携した協働活動の実現 3.グローバル時代に対応した英語教育の推進 7.読書活動の充実	①基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため指導法の工夫に取り組む	基礎学力の定着を図るために、朝学習や家庭学習において、児童に漢字学習や計算練習、語句調べをさせることができた 「自主学習の手引き」により適切な学習時間を家庭に示し、児童や家庭に家庭学習の充実を促すことができた	
		②他者との交流しながら、考えを深める力を着実に育てる	「考える道徳」「議論する道徳」を実践するために、書くことで自らの考えを明確にし、それをそれぞれが表現し広めるという活動を取り入れることができた 考えを深める力を着実に育てるために、学習においてめあてを提示して学びの焦点化を図り、学習の振り返りを設定することができた	
		③筋道を立てて考え表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高める	学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた	
		地域と連携した協働活動を実現し、多様な教育活動を展開する	地域人材を用いた体験的学習等を通じて児童に学ぶ意欲を持たすことができた	
		外国語や外国文化に興味関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとろうとする態度を養う	主指導者としてALTなどと協力し、体験的な活動を通して児童に外国語や外国文化に興味関心を持たせ、進んでコミュニケーションをとるように指導することができた	
		読書活動の充実を図り、読書習慣を育む	児童に家庭でも読書する習慣を身に付けさせるために、学校図書館を活用して読書への興味関心を持たせた	
		④児童に関する課題を共有し、全職員でルールの徹底とマナーの育成に取り組む	「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることの大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを意味を理解させた 児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた	
徳： 豊かな 人間性 の 育成	2.地域と連携した協働活動の実現 4.規範意識や情報モラルを育成する道徳教育の充実 5.自尊感情の醸成 6.心の居場所となる学級づくり 8.幼稚園・保育園・こども園との接続ならびに中学校との連携	⑤自己の成長を振り返り、よさを認め、実感できる取組を充実させる	教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートに記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた	
		⑥多様な交流・体験的学習を通して、互いを理解し認め合う大切さを学ばせる	思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた	
		人権尊重の意識に基づき、一人一人が大切にされる学級経営を行う	学級活動や道徳の時間を通じて、児童に自他を尊重する意識を持たすことができた	
		人権尊重の考えに基づき、情報モラルを向上させる	自他の人権を守るために、正しく情報機器を利用することの必要性を児童に指導し、家庭に啓発することができた	
体： たくましい 心身の 育成	⑦話し合い活動を活性化し、自主的・自発的に問題を解決する力を伸ばす	⑧集団でのかかわりの場を通して社会性を育て、自己有用感を高める活動を工夫する	自主的・自発的に問題を解決するために、児童にとって身近な議題を学級会で設定し、話し合い活動を活性化させることができた ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動など、学校生活の様々な場面で児童らが話し合いをする機会を積極的に設け、協働的な課題解決の力を育てることができた ふれあいタイムの時間には、高学年児童がリーダーとして働くことができるような支援を行い、異学年の児童同士が互いに認めあい、自己有用感をもつことができるような指導をすることができた 委員会活動において、円滑な学校生活のためにはどのようにすべきかを考えさせて委員会活動を遂行させ、児童が自己有用感を味わうことができるように支援することができた	
		⑨「体づくり運動」の充実と、体力・運動能力向上の取組をすすめる	体育の授業で「体づくり運動」を実施し、児童らの体力向上を図ることができた たてわり活動を通じて、児童らの体力向上を図ることができた 外遊びを紹介したり学級遊びを実施したりして、児童が進んで外遊びに取り組むような環境整備を行うことができた	

分類	番号	全教員	できた	おおむねできた	あまりできていない	できていない	肯定意見	否定意見
		項目	割合	割合	割合	割合	割合	割合
学習	1-①	学習習慣の定着	35	60	5	0	95	5
	1-②	適切な時間での家庭学習	16	47	37	0	63	37
	1-③	論理的思考のための言語活動	26	63	11	0	89	11
	1-④	学習内容の定着	45	50	5	0	95	5
	1-⑤	考えや思いの表現	36	55	9	0	91	9
		地域との協働した学習	19	24	38	19	43	57
		外国語活動、外国語教育の推進	42	37	21	0	79	21
		読書習慣の確立	42	53	5	0	95	5
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	30	70	0	0	100	0
		生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信	48	48	4	0	96	4
	2-②	丁寧な言葉遣い	57	39	4	0	96	4
		児童の自己成長確認の場の設定	27	55	18	0	82	18
	2-④	年下への思いやり	52	39	9	0	91	9
		自他尊重精神の育成	48	52	0	0	100	0
		情報モラルの教育・啓発	35	52	13	0	87	13
仲間・健康	3-①	話し合い活動の活性化	20	75	5	0	95	5
	3-③	集団行動を通じての協働活動	26	65	9	0	91	9
	3-④	協働活動を通じての自己有用感の醸成	41	50	9	0	91	9
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感	39	52	9	0	91	9
	3-⑤	授業中の運動量の確保	30	60	10	0	90	10
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	23	50	23	5	73	27
	3-⑦	外遊びの習慣化	35	40	25	0	75	25

肯定的意見の割合が90～100
 肯定的意見の割合が80～89
 否定的意見の割合が41以上
 否定的意見の割合が31～40
 否定的意見の割合が21～30

R3年度末 教員アンケート



教員アンケートの考察

・今回のアンケートで、教員の肯定的意見の割合が高かった項目は、「学習習慣の定着」「学習内容の定着」「考えや思いの表現」「読書習慣の確立」「きまりや約束、規則の順守」「生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信」「丁寧な言葉遣い」「年下への思いやり」「自他尊重精神の育成」「話し合い活動の活性化」「集団行動を通じての協働活動」「協働活動を通じての自己有用感の醸成」「集団への奉仕を通じての自己有用感」「授業中の運動量の確保」の14項目であり、90%以上の教員が肯定的に評価している。また、比較的肯定的意見の割合が高かった項目は「論理的思考のための言語活動」「児童の自己成長確認の場の設定」「情報モラルの教育・啓発」の3つであり、80%以上の教員が肯定的に評価している。

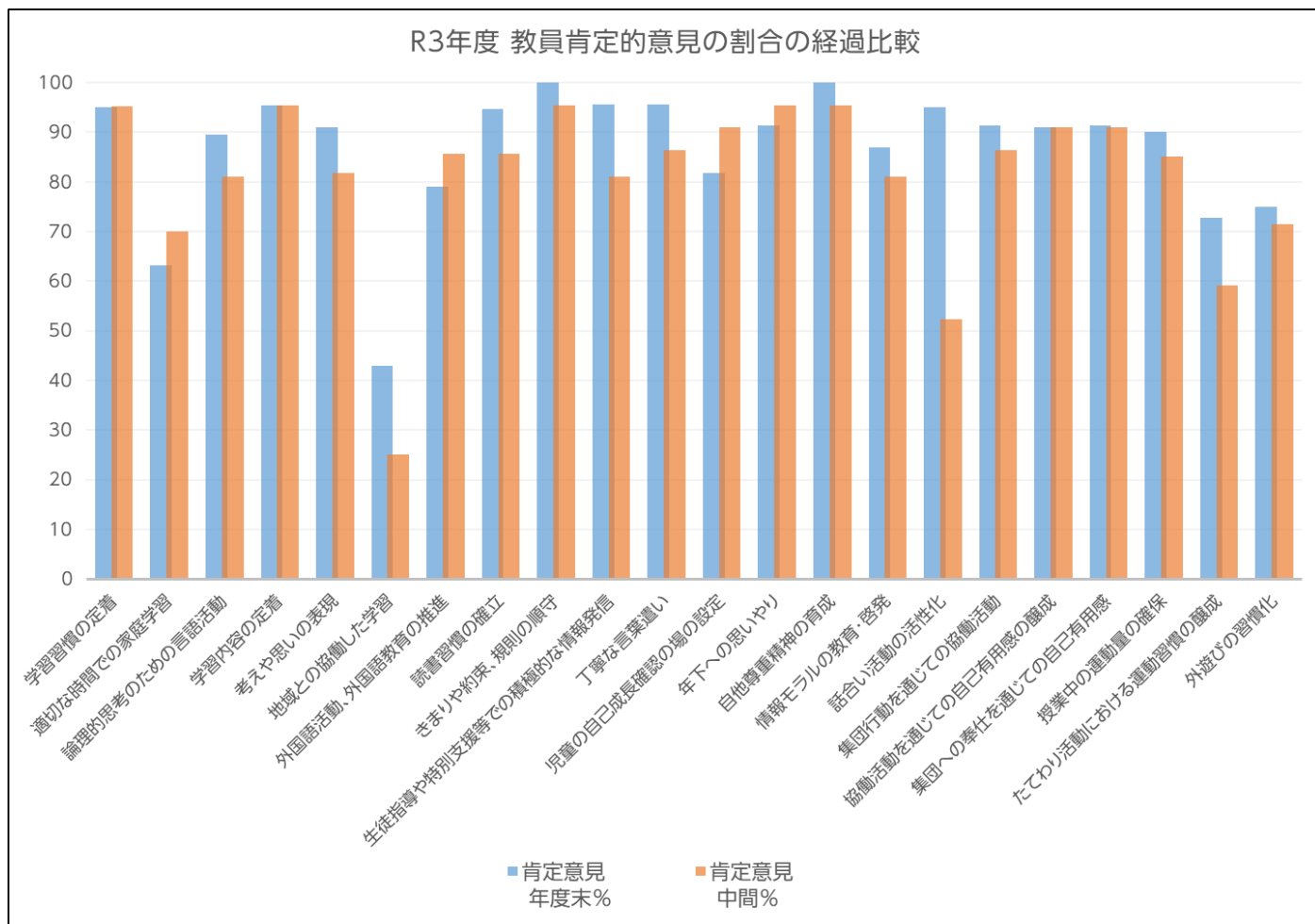
・消極的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「地域と協働した学習」の2項目であり、教員自身が取組に改善の余地があると感じている項目と思われる。「地域と協働した学習」は、中間期に比べて肯定的意見が18ポイント上昇して大幅に改善されたが、肯定的意見が半分にも満たない。今年度もコロナ禍での教育活動となり、当初予定していたゲストティーチャーを招聘しての体験学習等の実施を見送ったり、内容を大幅に縮小したりしたことが、理由の一つと考えられる。次年度以降もコロナ禍が続くことが想定される中、コロナ禍における体験学習の在り方を探っていかなければならないと考える。「適切な時間での家庭学習」は、中間期に比べて7ポイント下降した。児童が上級学校に進学した際に、家庭学習を適切な時間する習慣が身に付いていないために、学業がおろそかになるということがないようにするためにも、小学校の間にしっかりと児童に身に付けさせていきたい。そのためにも、「家庭学習の手引き」を用いて家庭に啓発することを教員間でしっかりと共通理解を図り、啓発を今年度以上に進めていきたい。

R3年度 教員肯定的意見の割合の経過比較

分類	番号	全教員 項目	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
			年度末%	中間%	年度末%	中間%
学習	1-①	学習習慣の定着	95	95	5	5
	1-②	適切な時間での家庭学習	63	70	37	30
	1-③	論理的思考のための言語活動	89	81	11	19
	1-④	学習内容の定着	95	95	5	5
	1-⑤	考えや思いの表現	91	82	9	18
		地域との協働した学習	43	25	57	75
		外国語活動、外国語教育の推進	79	86	21	14
		読書習慣の確立	95	86	5	14
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	100	95	0	5
		生徒指導や特別支援等での積極的な情報発信	96	81	4	19
	2-②	丁寧な言葉遣い	96	86	4	14
		児童の自己成長確認の場の設定	82	91	18	9
	2-④	年下への思いやり	91	95	9	5
		自他尊重精神の育成	100	95	0	5
		情報モラルの教育・啓発	87	81	13	19
仲間・健康	3-①	話し合い活動の活性化	95	52	5	48
	3-③	集団行動を通じての協働活動	91	86	9	14
	3-④	協働活動を通じての自己有用感の醸成	91	91	9	9
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感	91	91	9	9
	3-⑤	授業中の運動量の確保	90	85	10	15
	3-⑥	たてわり活動における運動習慣の醸成	73	59	27	41
	3-⑦	外遊びの習慣化	75	71	25	29

改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）	肯定的意見の割合が90～100
改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）	肯定的意見の割合が80～89
改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降か横ばい）	否定的意見の割合が41以上
注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）	否定的意見の割合が31～40
	否定的意見の割合が21～30

・教員は児童、保護者と比べると、全体的に取組に対しての肯定的意見の割合が高く、肯定的に捉える項目も多い。中間期と経過比較すると、ほとんどの項目で肯定的意見の割合が上昇している。各々の教員が、中間期のアンケート結果を踏まえて取組の改善を試みたと思われる。22項目中14項目で肯定的意見の割合が上昇しており、本校の学校評価における PDCA サイクルはしっかりと機能していると考えられる。しかし、「適切な時間での家庭学習」については、中間期と比べて肯定的意見の割合が中間期も高くなかった上に減少している。今後の課題としていきたい。



令和3年度 保護者アンケート

家でのお子さんの様子や学校についてお答えください。当てはまる番号に○をつけてください。

		評価の視点	そう思う	だいたい そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない
学 習	1-①	お子さんは、朝の学習や家庭学習を通じて基礎学力を定着させていますか。	4	3	2	1
	1-②	お子さんは、「自主学習のてびき」で示した学年毎の目安の時間、家庭学習をしていますか。	4	3	2	1
	1-③	お子さんは、学習して分かったことや自分の考えを、ノートやプリントに書いていましたか。	4	3	2	1
	1-④	お子さんは、学校での学習内容を概ね理解できていますか。	4	3	2	1
	1-⑤	お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言えるようになってきましたか。	4	3	2	1
	1-⑥	お子さんは、落ち着いて授業を受けていますか。	4	3	2	1
	1-⑦	お子さんは、英語を使ってみたり、外国の文化に興味を持ったりするようになりましたか。	4	3	2	1
	1-⑧	お子さんは、家で読書をしていますか。	4	3	2	1
生 活	2-①	お子さんは、家でのきまりや交通ルール、友達との約束を守ることができていますか。	4	3	2	1
	2-②	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。	4	3	2	1
	2-③	お子さんは、違う学年の子とも仲良くしていますか。	4	3	2	1
	2-④	お子さんは、年下の子を大切にしようとしていますか。	4	3	2	1
	2-⑤	お子さんは、近所の人や教員、友達に対して気持ちのよい挨拶をしていますか。	4	3	2	1

お子さんの学年（ ）年

仲間・健康	3-①	お子さんは、人の意見をよく聞いてから自分の意見を言おうとしていますか。	4	3	2	1
	3-②	お子さんは、たてわり活動を通じて異学年の児童との関わりを深め、協調性を身に付けていますか。	4	3	2	1
	3-③	お子さんは、委員会活動を通じて、自分が人の役に立っていることを認識していますか。	4	3	2	1
	3-④	お子さんは、積極的に体を動かし、外遊びや運動をしていますか。	4	3	2	1
学校	4-①	学校は、お子さんが楽しい学校生活を送ることができるように配慮していますか。	4	3	2	1
	4-②	学校は、お子さんの心に残るような学習や行事などの教育活動を実践していますか。	4	3	2	1
	4-③	学校は、様々な体験を通してお子さんに生きる力を身に付けていますか。	4	3	2	1
	4-④	学校は、外部人材を招いて体験活動を取り入れた学習を進めるなど、地域の教育力を生かした教育が行っていますか。	4	3	2	1
	4-⑤	学校は、教育方針や教育活動を分かりやすく伝え、家庭と連携を図ろうとしていますか。	4	3	2	1



ご意見等があれば、お書きください。

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

保護者アンケートの考察

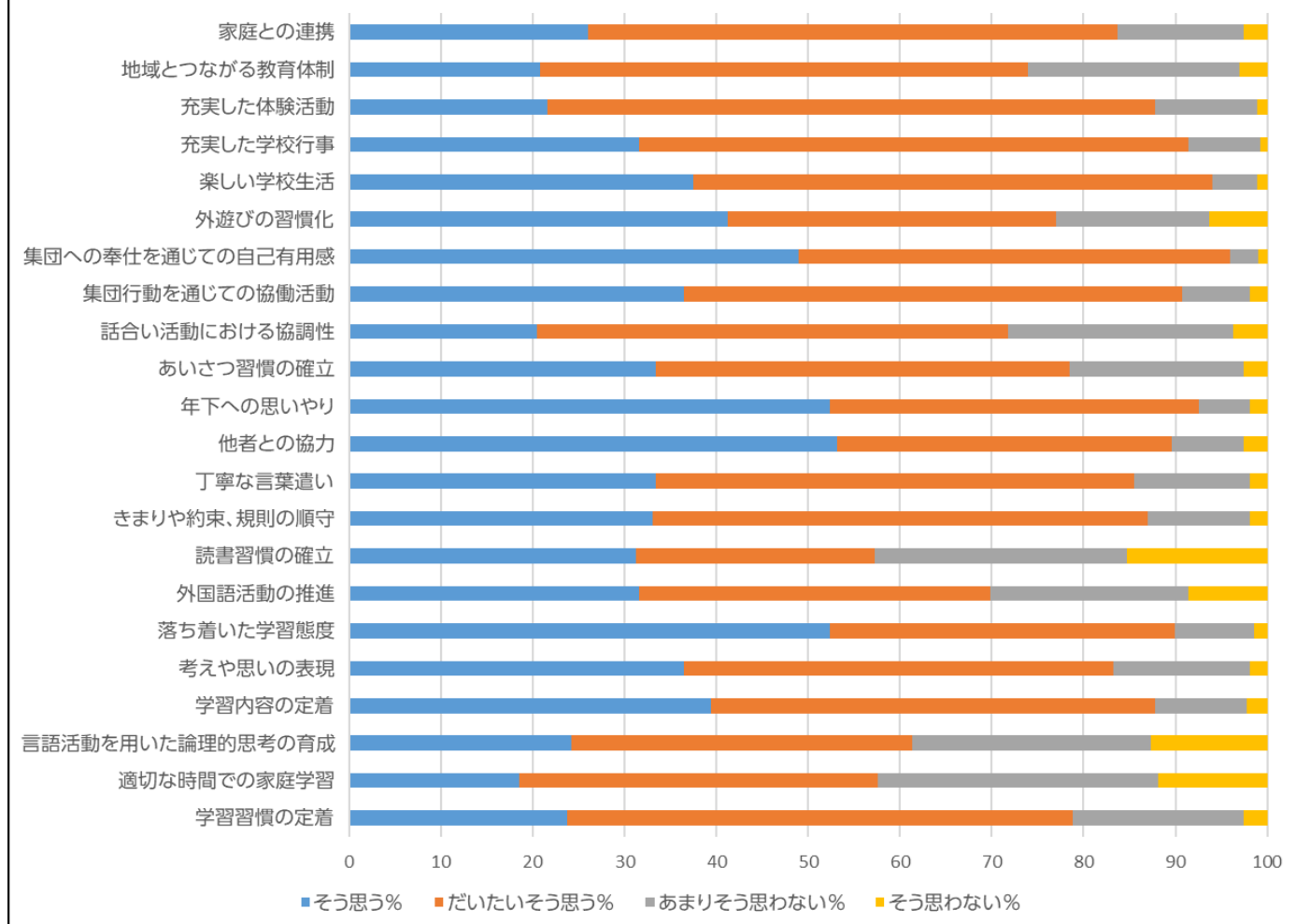
・今回の保護者アンケートで肯定的意見が高い割合だった項目は、「落ち着いた学習態度」「他者との協力」「年下への思いやり」「集団行動を通じての協働活動」「集団への奉仕を通じての自己有用感」「楽しい学校生活」「充実した学校行事」の7項目で、昨年度の4項目から大幅な改善が見られた。いずれの項目も90%以上の保護者が肯定的な評価をしており、これらの項目については、今年度、達成が図られたと考えられる。次いで、肯定的意見が80%以上だった項目は、「学習内容の定着」「考えや思いの表現」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「充実した体験活動」「家庭との連携」の6項目である。これらの項目についても、ほぼ目標は達成されたものと思われる。「学習内容の定着」と「充実した体験活動」については、肯定的意見が88%であり、達成されたと考えてもよいのではないかと思われる。分野別にみると、生活の分野は「あいさつ習慣の確立」以外はすべて高い評価であり、生徒指導をはじめとした教育活動について、高い評価をされていると思われる。「あいさつ習慣の確立」は、昨年度より2ポイントの下降が見られた。児童にコミュニケーション力を獲得させるためには、あいさつの習慣化が必要なことは言うまでもないことである。児童があいさつを習慣化できるように、家庭、地域とも連携して指導にあたっていきたい。仲間・健康や学校の分野では、肯定的意見が70パーセント台の項目があるものの、突出して肯定的意見の割合が低い項目はなく、ある一定の達成は見られたのではないかと考える。特に、コロナ禍で学校行事や体験活動が制限されたり縮小されたりしたにもかかわらず、「充実した学校行事」「充実した体験活動」の項目において、昨年度よりも肯定的意見の割合が上昇し、9割以上の保護者が肯定的な評価であったのは、学校行事や体験活動を工夫して実施したことを肯定的に受け止めてもらえたからだと思う。この評価を今後の励みにし、教育活動に邁進していきたい。また、「家庭との連携」は、昨年度よりも5ポイント上昇した。教職員一人一人が、こまめに各家庭と連絡を取り合い、連携を深めてきた結果ではないかと考える。しかしながら、記述欄には「ツイッターでもっと情報発信をしてほしい」との声があり、次年度への課題も明らかになった。学習分野では、「学習内容の定着」「考えや思いの表現」の項目が80%以上の肯定的評価であり、これらについてはほぼ達成されたと考える。「学習習慣の定着」については、肯定的意見が79%であり、目標はある一定、達成されたと思われる。しかし、朝の学習や家庭学習をすることで基礎学力を身に付けることは、学習を進めるうえでの前提条件といえる。前年度に比べて1ポイント上昇したが、その伸びは鈍いと言わざるを得ない。家庭への積極的な啓発を行うなど、次年度への継続した課題としたい。

R3年度末 保護者アンケート

全保護者			R3全校	R3全校
分類	番号	項目	肯定意見	否定意見
学習	1-①	学習習慣の定着	79	21
	1-②	適切な時間での家庭学習	58	42
	1-③	書くことによる論理的思考	61	39
	1-④	学習内容の定着	88	12
	1-⑤	考えや思いの表現	83	17
	1-⑥	落ち着いた学習態度	90	10
	1-⑦	外国語活動の推進	70	30
	1-⑧	読書習慣の確立	57	43
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	87	13
	2-②	丁寧な言葉遣い	86	14
	2-③	他者との協力	90	10
	2-④	年下への思いやり	93	7
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	78	22
仲間・健康	3-①	話し合い活動における協調性	72	28
	3-②	集団行動を通じての協働活動	91	9
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	96	4
	3-④	外遊びの習慣化	77	23
学校	4-①	楽しい学校生活	94	6
	4-②	充実した学校行事	91	9
	4-③	充実した体験活動	88	12
	4-④	地域とつながる教育体制	74	26
	4-⑤	家庭との連携	84	16

	肯定的意見の割合が90～100
	肯定的意見の割合が80～89
	否定意見の割合が41以上
	否定意見の割合が31～40
	否定意見の割合が21～30

R3年度末 全保護者アンケート



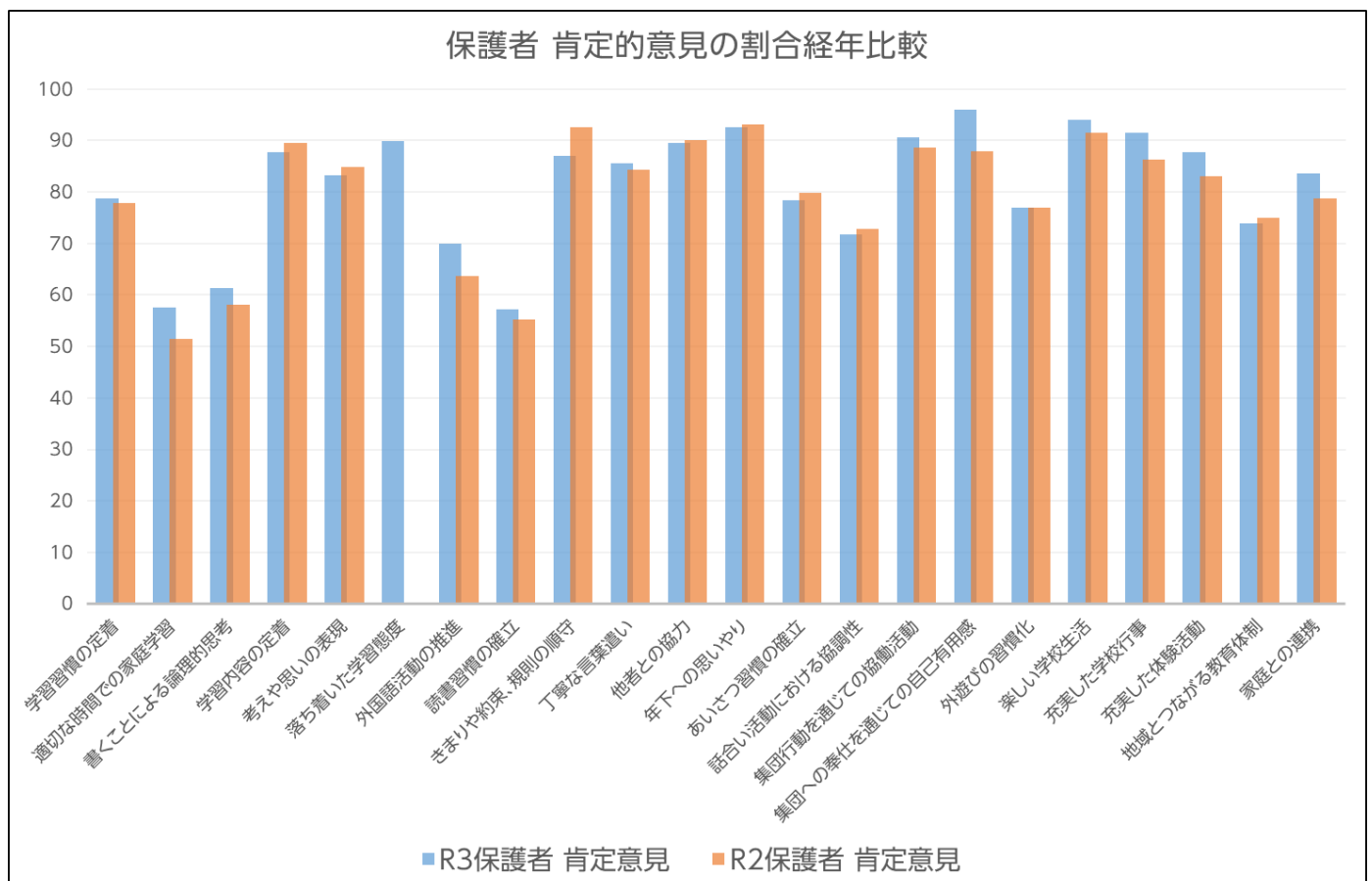
・否定的意見が高い割合だった項目は、「適切な時間での家庭学習」「書くことによる論理的思考」「読書習慣の確立」の3項目であった。昨年度の4項目から1項目減り、それぞれの項目も「適切な時間での家庭学習」が7ポイント上昇、「書くことによる論理的思考」は3ポイント、「読書習慣の確立」は2ポイント上昇と、緩やかな改善が見られた。しかし、早急な改善が必要な項目であるにも関わらず、その改善の速度は緩やかである。今年度行った対策以外の対策を講じていかなければならないと考える。ただ、「書くことによる論理的思考」「読書習慣の確立」は、児童や教員は高評価な項目であり、保護者の認識との間にずれが見られる。学校での活動を発信するなどして、活動内容について保護者の理解を得る事や、読書習慣が児童の思考力や表現力を伸ばす大事な要素であることを啓発し続ける事も、重要なことではないかと考える。「適切な時間での家庭学習」については、昨年度よりも7ポイントの改善が見られたが、依然、多くの保護者が否定的な評価をしており、喫緊の課題と捉える。今年度の全国学力学習状況調査において、本校は市内の他の学校に比べ、家庭学習の時間が短いという結果が出ている。上級学校に進学した際に、学習習慣が身に付いていないために学業がおろそかになるということがないようするためにも、小学校の間にしっかりと児童に身に付けることが重要であるということを家庭に啓発していきたい。また、子ども達が自主学習に進んで取り組めるような仕組みの整備を進めていくことも必要であると考え。新学習指導要領で示された学力の3要素の一つである「学びに向かう力」の育成には、自主学習をはじめとした家庭学習の習慣化が大きく寄与しているという事を次年度も継続して保護者に伝え、協力を仰いでいきたい。ノートやプリントに考えを書いているかを尋ねた「書くことによる論理的思考」については、39%の保護者が否定的な評価をしている。今年度、道徳の時間にプリントやワークシートへ自分の考えを書くことに加えて、他の教科でも考えや思いを書くといった活動を増やしてきた。そのため、児童と教員

はこの項目で高評価をしている。活動内容を保護者に伝え、理解を得ていきたい。「読書習慣の確立」は、43%の保護者が否定的な評価をしている。同じ項目について教員は、否定的意見が5%であり、保護者との認識に乖離が見られた。学校では図書時間に学校司書が読み聞かせをしたり、図書室に本を借りに行ったりして子ども達が図書とふれあう機会を意図的に創り出しているため、多くの教員が肯定的に評価をしているが、せっかく借りた本を家庭で読んでいないか、読んでそのあと続けて読んでいないのではないかと思われる。短い時間でもよいので、読書する習慣が身につくような取組を模索していきたいと考える。

全保護者肯定的意見の割合経過比較			R3保護者	R2保護者	R3保護者	R2保護者
分類	番号	項目	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
学習	1-①	学習習慣の定着	79	78	21	22
	1-②	適切な時間での家庭学習	58	51	42	49
	1-③	書くことによる論理的思考	61	58	39	42
	1-④	学習内容の定着	88	89	12	11
	1-⑤	考えや思いの表現	83	85	17	15
	1-⑥	落ち着いた学習態度	90		10	
	1-⑦	外国語活動の推進	70	64	30	36
	1-⑧	読書習慣の確立	57	55	43	45
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	87	93	13	7
	2-②	丁寧な言葉遣い	86	84	14	16
	2-③	他者との協力	90	90	10	10
	2-④	年下への思いやり	93	93	7	7
	2-⑤	あいさつ習慣の確立	78	80	22	20
健康間	3-①	話し合い活動における協調性	72	73	28	27
	3-②	集団行動を通じての協働活動	91	89	9	11
	3-③	集団への奉仕を通じての自己有用感	96	88	4	12
	3-④	外遊びの習慣化	77	77	23	23
学校	4-①	楽しい学校生活	94	92	6	8
	4-②	充実した学校行事	91	86	9	14
	4-③	充実した体験活動	88	83	12	17
	4-④	地域とつながる教育体制	74	75	26	25
	4-⑤	家庭との連携	84	79	16	21

肯定的意見の割合が80以上
否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90~100
肯定的意見の割合が80~89
否定的意見の割合が41以上
否定的意見の割合が31~40
否定的意見の割合が21~30



児童・保護者・教員の意識比較についての考察

・三者とも肯定意見が80パーセント以上の高評価であった項目は、「学習内容の定着」「きまりや約束、規則の順守」「丁寧な言葉遣い」「集団行動を通じての協働活動」「集団への奉仕を通じての自己有用感」の5項目であり、これらの項目については、今年度の教育活動において概ね達成できたと考える。中でも「集団への奉仕を通じての自己有用感」は、三者の肯定意見が90パーセント以上

R3年度末アンケート児童・保護者・教員の意識比較

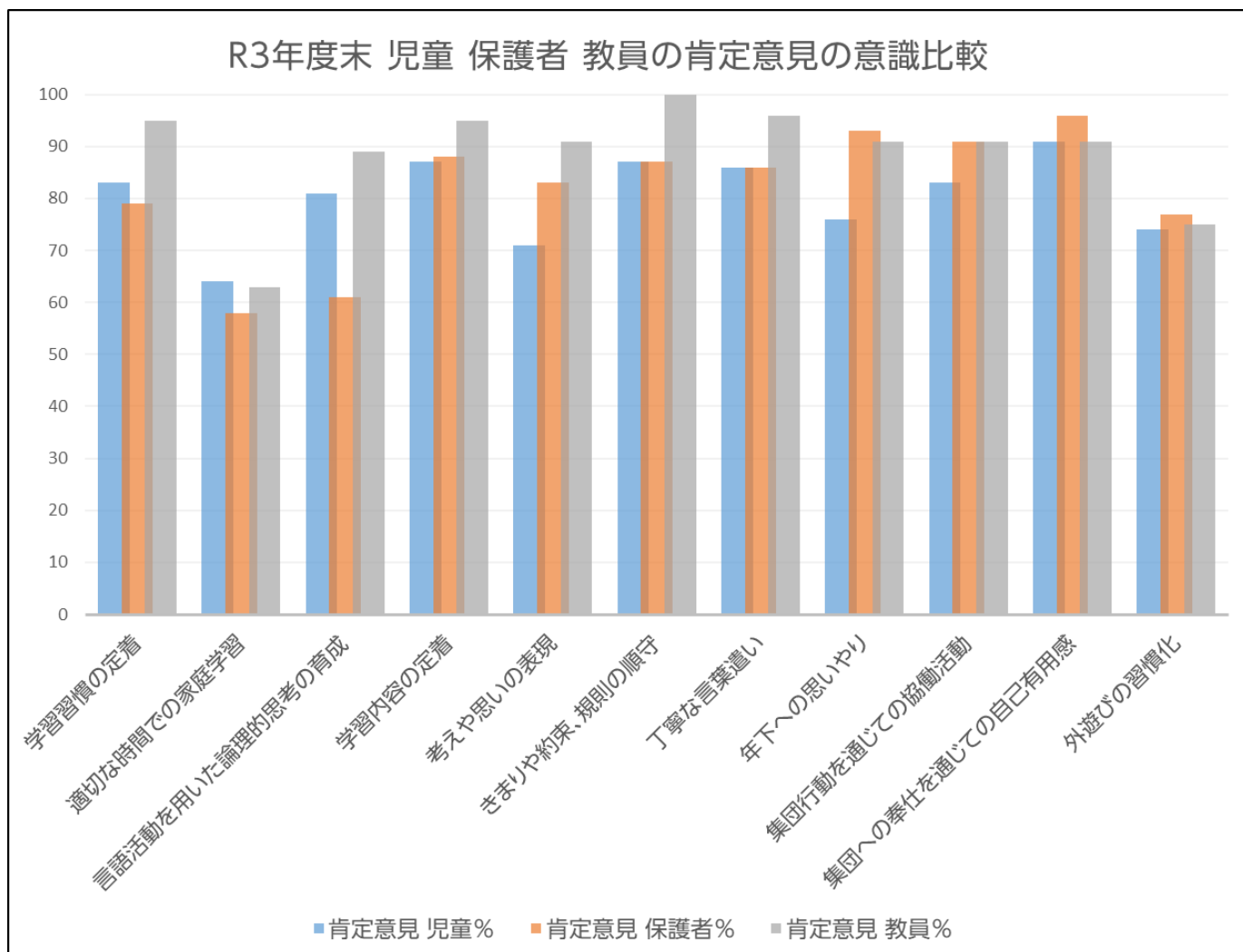
分類	番号	項目	肯定意見	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見	否定意見
			児童%	保護者%	教員%	児童%	保護者%	教員%
学習	1-①	学習習慣の定着	83	79	95	17	21	5
	1-②	適切な時間での家庭学習	64	58	63	36	42	37
	1-③	言語活動を用いた論理的思考の育成	81	61	89	19	39	11
	1-④	学習内容の定着	87	88	95	13	12	5
	1-⑤	考えや思いの表現	71	83	91	29	17	9
生活	2-①	きまりや約束、規則の順守	87	87	100	13	13	0
	2-②	丁寧な言葉遣い	86	86	96	14	14	4
	2-④	年下への思いやり	76	93	91	24	7	9
健康	3-③	集団行動を通じての協働活動	83	91	91	17	9	9
	3-④	集団への奉仕を通じての自己有用感	91	96	91	9	4	9
	3-⑦	外遊びの習慣化	74	77	75	26	23	25
学校	4-①	楽しい学校生活	85	94		15	6	
	4-②	充実した学校行事		91			9	
	4-③	充実した体験活動		88			12	
	4-④	地域とつながる教育体制		74	43		26	57
	4-⑤	家庭との連携		84			16	
	4-⑥	自己有用感の確立	61		91	39		9
	4-⑦	他者への思いやり	81			19		
	4-⑧	素直な態度	82			18		

肯定的意見の割合が90～100
 肯定的意見の割合が80～89
 否定的意見の割合が41以上
 否定的意見の割合が31～40
 否定的意見の割合が21～30

上の高評価であり、十分に達成されたと思われる。また、「落ち着いた学習態度」「他者との協力」「授業中の運動量の確保」「楽しい学校生活」については三者にアンケート調査をしていないものの、二者が高評価をしている項目であり、これらの項目についても今年度の教育活動において概ね達成できたと思われる。

・評価に乖離が見られたのは、9項目である。その内、保護者と教員の間には乖離が見られるのは、「学習習慣の定着」「言語活動を用いた論理的思考の育成」「読書週間の確立」「地域とつながる教育体制」の4項目である。先の3項目については、保護者が低評価の項目であるが児童と教員は高評価しており、学校教育の場においては、ある程度達成されたのではないかと考える。しかし、家庭においては達成が不十分であり、今後、家庭に協力を求め、連携して改善していかなければならないと考える。「地域とつながる教育体制」は、保護者は高評価であるが、教員は低評価だった項目である。今年度もコロナ禍での教育活動となり、年度当初に計画していたゲストティーチャーを招いての体験学習がなかなか実施できなかったことも、教員が低評価した理由の一つと考えられる。しかし、保護者は、そんな中でもスクールボランティアを活用した教育活動が展開されたことを評価したのではないかと考えられる。来年度以降もコロナ禍が続くことを想定し、スクールボランティアに今年度以上に教育活動に参加してもらい、コロナ禍においてもいかにゲストティーチャーを活用して体験学習を充実させるかを考え、教育活動の充実を図りたい。「考えや思いの表現」「年下への思いやり」「建設的な意見の発言」「自己有用感の確立」は、教員や保護者は高評価であるが、児童の評価が低評価の項目である。親や教員といった大人が、児童の良さや頑張りに対して機会を逃さずに認めて伝えることで、児童が自己を肯定的に受け止められるようにしていきたい。「たてわり活動における運動習慣の醸成」は、児童は高評価であるが、教員は低評価の項目である。児童は、たてわり活動において長縄や鬼ごっこなどで体を動かして活動したことに満足しているが、今年度はたてわり班の活動回数を若干、減らしたことも、教員が低評価した理由の一つと考えられる。また、たてわり活動だけで児童の体力向上を図るわけではないということも、教員が高評価しない理由の一つと考えられる。児童が、たてわり活動で十分に体を動かしていると感じていることから、来年度もたてわり活動の形態は概ね現状の形態を維持することで問題はないのではないかと考える。

R3年度末 児童 保護者 教員の肯定意見の意識比較



・二者、もしくは三者ともが低い評価であった項目は、「適切な時間での家庭学習」であった。昨年度に比べて低評価の項目が減り、昨年度の課題を踏まえたうえで今年度の教育活動が展開された結果であると考えられる。しかし、「適切な時間での家庭学習」は、昨年度も低評価であったうえに、今年度は児童も低評価しており、今後の教育活動において改善が必須の項目である。「家庭学習の手引き」の活用を呼びかけるだけでなく、より一層の手立てを講じ、次年度への課題として重点的に教育活動を展開していくべきであると考えられる。

・学校の分野の項目は、児童と保護者を中心に調査したものであり、「地域とつながる教育体制」「自己有用感の確立」の項目以外のそれぞれの項目については、達成、もしくは概ね達成できたと思われる。今後は、委員会活動以外の教育活動で、児童が、「自分は、人の役にたっていると思う。」と自分のことを認め、誇らしく思えるような教育活動は何かということを探求し、児童の自己有用感獲得を本校の教育課題と位置付けて、教育活動を展開していきたい。